

正月の松飾りが残る時期に、この編集後記を執筆しております。グローバル化がしきりと強調される今日この頃です。わが国でも、クリスマスのみならずハロウィンなどの西洋の風習が、日常的に違和感なく語られるようになっていきます。確かに、文化・風習の融合は日々進んでいて、国と国、あるいは地域と地域の垣根も、だんだんと低くなってきていることを実感します。ただ、風土に根差した感性というものは、そう簡単には薄れないようで、日本の年末年始は、やはり、除夜の鐘、初詣、門松とこなければ、しっくりとはきません。

話を脊椎外科関連の国際学会に移します。それは、異なる文化・風土を背景にもつ医療関係者が世界各国から集まり、脊椎外科という共通のテーマについて、科学としての共通の尺度で議論する場です。ところが、実際に出席してみると、国・地域ごとに医療に関する風土が違う、ということ強く感じます。

私は以前から「わが国の脊椎外科」は、欧米、ことさら米国のそれとは少なからず異なる、ということを口にしてきました。特に、頸椎外科の領域では、違いが顕著であるように思います。その代表的なものが「頸椎症の神経症候学」に対する向き合い方の違いではないでしょうか。

Cervical Spine Research Society を例に挙げます。この学会は伝統と権威があり、世界各国の頸椎外科医が数多く集まります。私も10年以上前から毎年参加していますが、米国からの発表に対して、しばしば違和感を覚えることがあります。それは、myeloradiculopathy と診断されている患者が非常に多いことと、それに対して異議を唱える米国の脊椎外科医がほとんどいないことです。脊髄症と神経根症が同じ患者さんで現れることは、もちろんありますが、そう頻度の多いものではありません。日本の脊椎外科医であれば、頸椎症患者の上肢症状が、髄節由来なのか、それとも神経根由来なのかを鑑別することの重要性を理解しているでしょうし、安易に myeloradiculopathy という診断を下すことはないでしょう。「頸椎症の神経症候学」を真剣に考えることで、患者さん個々の病態を的確に捉えることができ、最良の治療法・術式を選択することができます。新しい治療法・手術法の開発にもつながるでしょう。

さて、本号の特集に掲載されている8編の論文を拝読いたしました。いずれにも、著者の先生方が患者さんを詳細に診察したうえで導き出した新しい発見が論述されています。治療法・手術法を選択する際に、脊椎外科医が迷う「特殊な神経症候学」というものが少なからずあります。本特集では「ここが知りたい」と思うところを選びすぐって、編集していただきました。読後の感想として、勉強になったと実感いたしました。(山崎正志)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 2

(2017年2月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,300円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となる場合がありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,

Printed in Japan

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。